

令和8年度 校内研修

1. 主題 「自律した学習者を育む学び」に向けた学習者主体の授業づくり
副主題 ～様々な場面での問いをもたせる工夫に視点をあてて～

2. 主題設定の理由

昨年度は、「学習者主体」「問いをもたせる工夫」に重点を置き、教員同士でアイデアを出し合いながら、お互いの授業を見合う形で研修を進めてきた。授業後の検討会では、児童が主体である姿の良さ、問いの在り方や価値に気づくことができた。

一方で、児童が主体的に取り組む授業を意識して実践したものの、本校の児童の実態に照らし合わせためざすべき「自立した学習者」としての認識の共通理解においては、やや課題が見られた。また、「問いをもたせる工夫」については難しさを感じ、児童の主体性を引き出すための具体的な手立てについて、さらに継続して探る必要がある。

そこで本年度は、継続して、「問いをもたせる工夫」に視点をあてつつ、様々な場面での問いの在り方や価値を見つめ直して授業構想ができるようにしたい。また、児童が主体となって学習に取り組めるようにするための指導の工夫に焦点を当てる。問いをもつことは、児童が自分事として受け止め、よりよくしたい、より知りたい、さらに学びたいという学習のつながりをもたらすであろう。さらに、児童自身が学ぶ必要感を感じることは、様々な物事や他者と自分とのつながり・関わりへの気づきをもたらし、思いや願いといった力を育むための基盤となるであろう。

教師にとっても学習者である児童の実態から、授業設計を試行錯誤し、柔軟に授業構想を行うことができる価値あるテーマであることから、本主題・副主題を設定した。

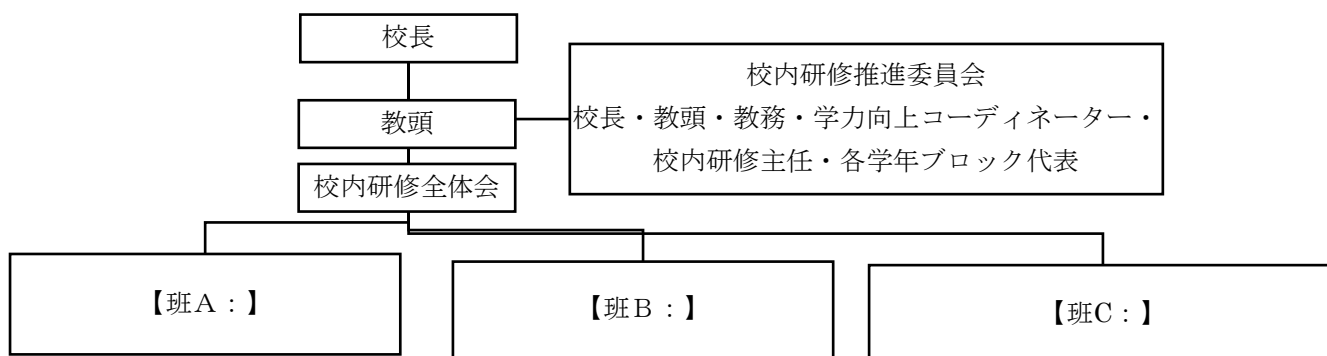
3. 研修のねらい

様々な場面での問いをもたせる工夫に視点をあてた授業デザインを考えることで、学習者が主体となる学びを目指す。

3. 研修の内容

- ・本校の児童の実態（学年の特徴、良さ、課題等）をふまえ、めざすべき「自立した学習者」の具体的な姿を共有する。
- ・児童が自分事としての実感や学びの必要感や価値を認識できるよう、教科や教材、題材、教科横断的なカリキュラムなどを計画や見直しをし、授業者自身が価値を見出す。
- ・様々な場面での問いについて、先行事例をもとに、共通認識をはかる。
- ・学年や教科を問わず、心理的安全性の保たれた学級経営、学びに向かえる環境づくり、必要な支援やタイミングの在り方を共有する。

4. 研修の組織



デジタル資料館：研修主任・副主任・情報主任・図書館教育主任・(情報教育支援員・学校司書等)

*授業は全員行い、各班員と管理職は必ず参観し短時間での振り返りを工夫して行う。なお、各班の一人一授業は班の全員が参観して行う。

5. 研修計画

日時	推・全	内 容	
4/8 予定	水	推進①	今年度の校内研修の内容及び組織検討
4/13	月	全体①	今年度の校内研修の内容及び組織・日程の検討
5/11	月	全体②	本校の児童の実態把握、目指すべき姿の共有
6/15	月	全体③	計画訪問での授業構想
7/17	金	全体④	班別研修 1
9/7	月	全体⑤	全国学調について
10/13	火	全体⑥	班別研修 2
11/16	月	全体⑦	班別研修 3
12/14	月	全体⑧	班別研修 4
1/8	金	全体⑨	研修のまとめ
3/8	月	全体⑩	研修のまとめと次年度の方向性について

○授業については、計画的に実施し、2学期中に完了を目指す。

○10月11月に授業が立て込まないように各班で計画的に行う。

○特別支援や人権教育など、テーマ以外の今日的課題についても幅広く学ぶ機会になるような研修も班別研修と交換して適宜取り入れる。